

報告事項工

平成21年度全国小・中学校不登校児童生徒の状況について

平成21年度全国小・中学校不登校児童生徒の状況について、別紙のとおり報告します。

平成22年8月19日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

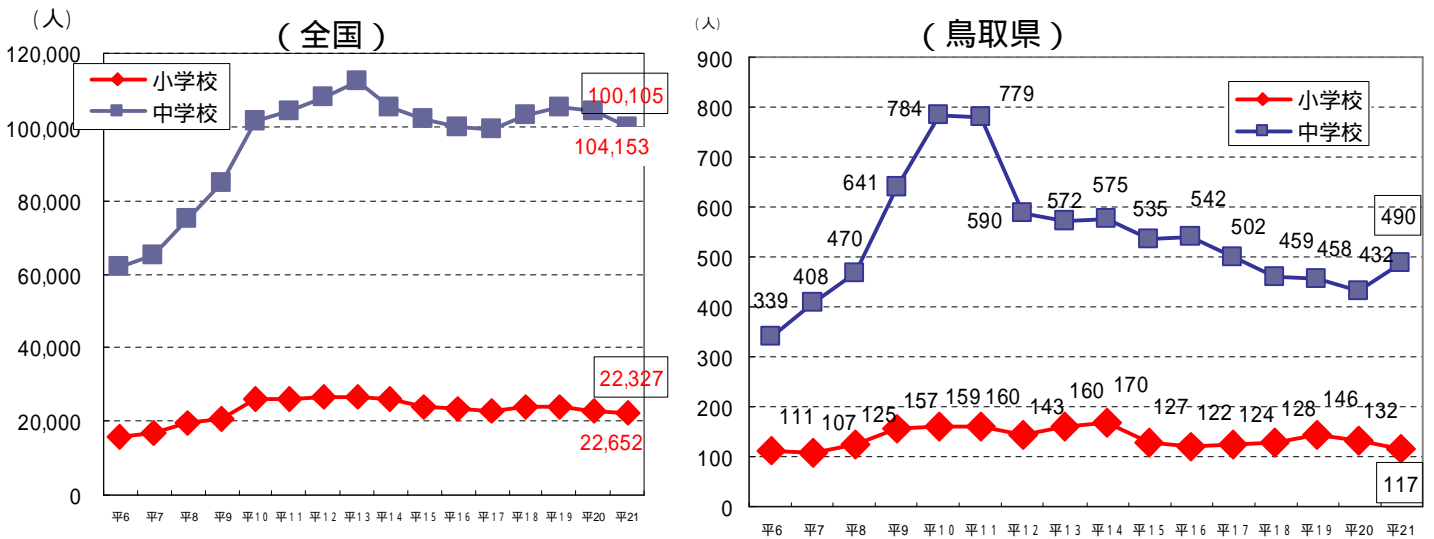
平成21年度全国小・中学校不登校児童生徒の状況について

小中学校課

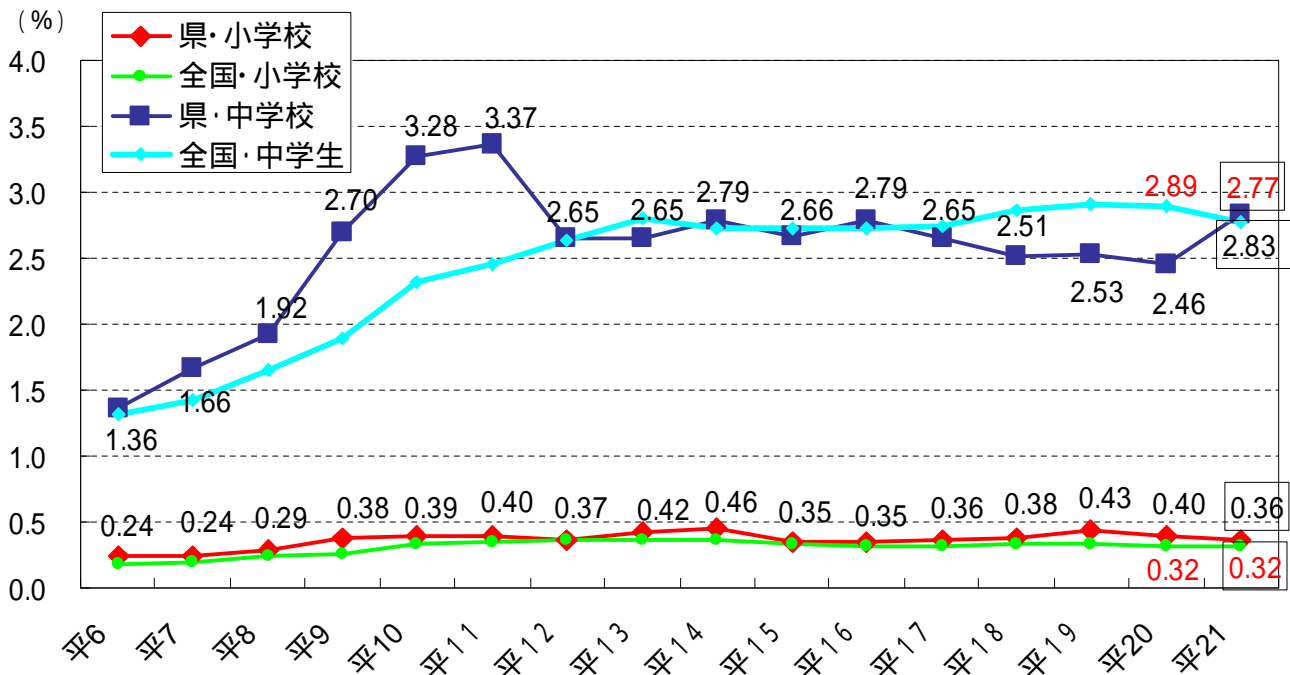
県教育委員会の集計による市町村立学校のデータや県の重点的な取組・対策などについては、7月の定例教育委員会で報告したところであるが、8月6日に文部科学省が公表した平成21年度速報値（市町村立学校以外の国立・私立学校も含む全国及び県の正式な統計数値）に基づいて資料を作成。

1 不登校児童生徒の状況について

【不登校児童生徒の数の推移】



【不登校児童生徒の割合の推移】



- ・鳥取県小学校では昨年に比べ、人数・割合ともに減少
- ・鳥取県中学校でここ数年減少傾向であった不登校生徒数は人数・割合ともに増加
- ・全国小学校では昨年に比べ、不登校児童数は減少、出現率は横ばい
- ・全国中学校では昨年に比べ、人数・割合ともに減少

2 本県の学年別・男女別の状況について

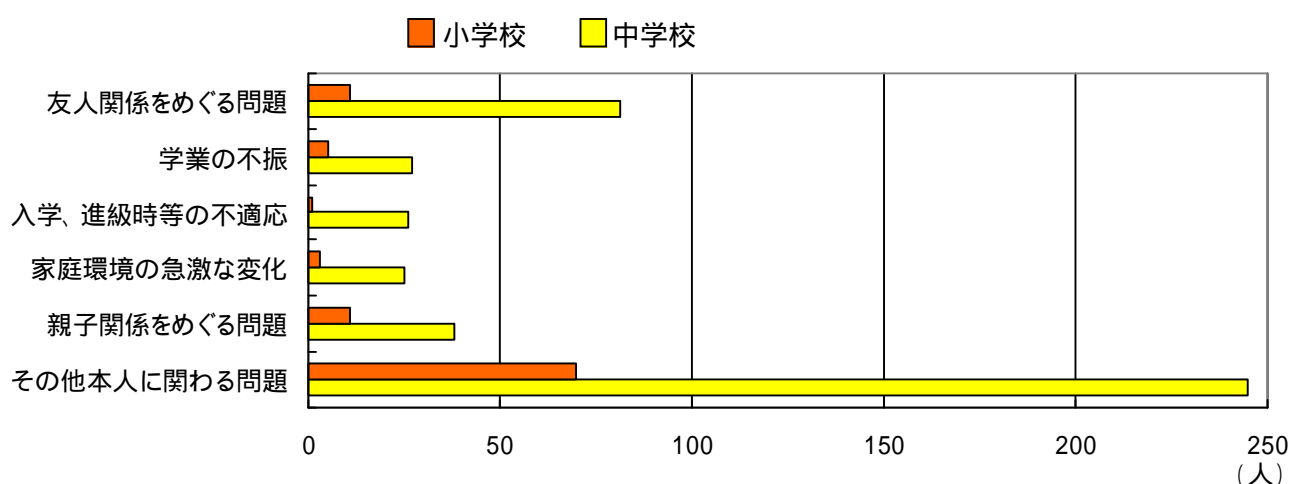
(市町村立学校のみ)

区分	不登校児童生徒数																		計		
	学年別内訳																				
	1年			2年			3年			4年			5年			6年			男	女	計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
小学校	1	2	3	6	1	7	8	6	14	9	11	20	19	16	35	23	15	38	66	51	117
	-	-	-	2	0	2	0	1	1	3	1	4	10	5	15	8	5	13	23	12	35
中学校	76	62	138	98	72	170	77	92	169	-	-	-	-	-	-	-	-	-	251	226	477
	15	23	38	52	35	87	53	58	111	-	-	-	-	-	-	-	-	-	120	116	236
合計	77	64	141	104	73	177	85	98	183	9	11	20	19	16	35	23	15	38	317	277	594
の合計	15	23	38	54	35	89	53	59	112	3	1	4	10	5	15	8	5	13	143	128	271

の欄は前年度から不登校の状態（30日以上）が継続している児童生徒の人数

- ・小学校では4年生から5年生にかけて大きく増加（15人増）
- ・中学校では1年生の不登校生徒数138人のうち、小学校から引き続きの生徒38人、新たに不登校になった生徒は100名
- ・中学2年生で新たに不登校になった生徒は83人、中学3年では58人で、学年が上がるにつれて減少傾向

3 不登校のきっかけについて（主なものを抜粋）



- ・本人に関わる問題（極度の不安や緊張、無気力等）が小・中ともに最も多い
- ・いじめを除く友人関係をめぐる問題（けんか等）が中学校で多い
- ・親子関係をめぐる問題（親の叱責、言葉・態度への反発等）も小・中ともに多い
- ・要因が複数あるため特定できない、本人が面談を拒否するなど、きっかけが不明なものもある

4 分 析

(1) 中学入学後に不登校になった生徒は、中学1年生の不登校生徒数の約7割で、小中連携の対策が必要

中学1年生で不登校生徒数が増加した背景として、小学校との環境の変化(教科担任制、新しい仲間との出会い、学習難易度のアップ等)で周囲と人間関係をうまく結ぶことができないこと等が考えられ、配慮を要する生徒の中学校入学時における小中の情報交換が大変重要になってくる。

(2) 不登校の児童生徒に対しては、担任、学年主任を中心として、養護教諭、教育相談担当教員、スクールカウンセラー、子どもと親の相談員、スクールソーシャルワーカー、教育支援センター(適応指導教室)等が連携して支援しており、年度末には小学校で50人(約43%)、中学校で185人(約39%)が登校できるようになった。

5 本年度(H22年度)の不登校対策について

(1) スクールカウンセラー、子どもと親の相談員、スクールソーシャルワーカーの継続的配置

(2) 不登校(傾向)の児童生徒への対応

学級担任、生徒指導担当教員、養護教諭、教育相談担当教員などによるきめ細かな対応

- ・家庭との連絡・関わり
 - ・子どもの状況に応じて相談室や保健室等の活用
 - ・友人関係の調整や教室復帰への支援
 - ・スクールカウンセラーや相談員によるカウンセリング
- 校内支援体制の整備や関係諸機関との連携
- ・研修会や事例研究会を通じた全教職員の共通理解
 - ・小・中学校間の連携(情報の共有)
 - ・教育支援センター等の相談機関との連携
 - ・不登校対応ネットワークシステム構築研究事業の推進
(教育支援センター間の交流や情報交換を行う事業)

(3) 不登校児童生徒を生まない教育活動の推進

- ・わかる喜びの持てる授業の推進
- ・心の居場所のある学級・学校づくり
- ・Q-U調査等を用いた生徒や学級の状況の客観的な分析
(学級満足度・学校生活意欲調査)
- ・道徳、特別活動の充実や人間関係づくりの取組の充実
- ・中学校入学時、進級時の学級編成の工夫